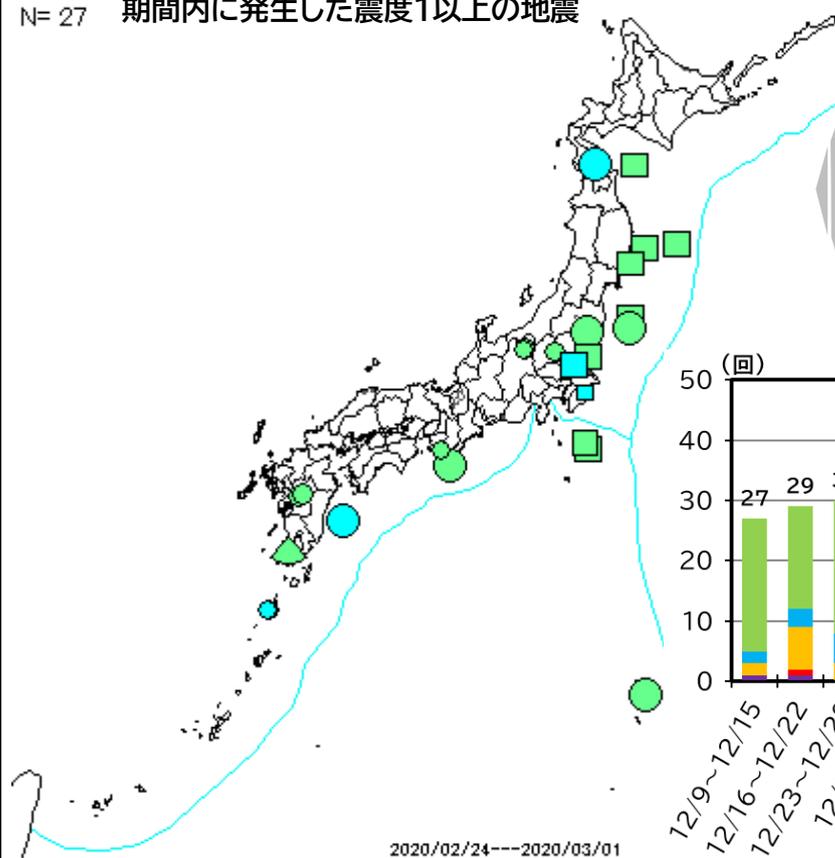


この期間の最大震度は2

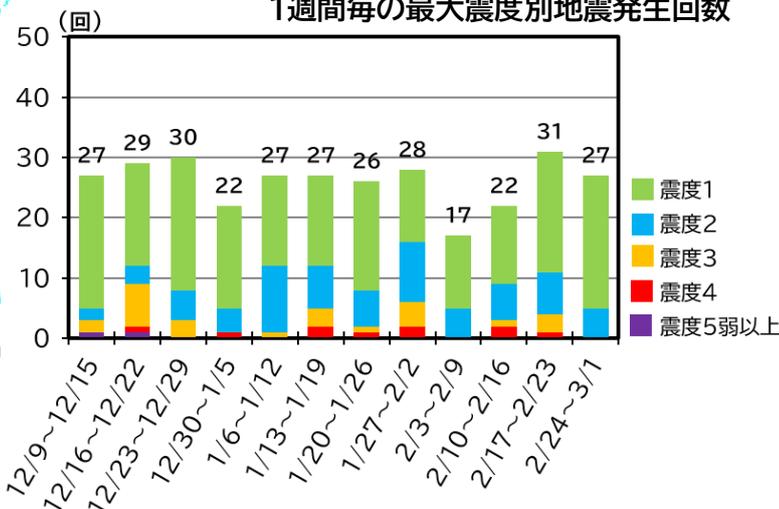
本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)

N= 27 期間内に発生した震度1以上の地震



最大震度	マグニチュード	深さ(km)
震度5弱以上	7.0	0
震度4	5.0	30
震度3	3.0	90
震度2		
震度1		

1週間毎の最大震度別地震発生回数



主な地震の発生状況

■ この期間、震度1以上の地震が27回発生。最大震度は2 ■
この期間は、新型コロナウイルスで騒がしい期間でしたが、地震活動は穏やかな期間でした。

トピックス

■ 昭和三陸地震とアウターライズ地震 ■

・3月3日(1933年(昭和8年))は、昭和三陸地震(M8.1)が発生した日です。地震動による被害は少なかった(仙台市、宮古市、福島市等で震度5)が、岩手県大船渡市で28.7mに達する巨大な津波が襲来し、死者1,522名、行方不明者1,542名の被害が発生した(日本被害地震総覧)。

・岩手県田老村(現・宮古市田老町)では、全人口1,798人のうち死者763人、戸数362軒のうち358軒が流出する被害を伴った(日本被害地震総覧)。

- ・この地震の特徴の一つは、アウターライズ地震と呼ばれるタイプの地震であったこと。
- ・アウターライズ地震とは、図のように海のプレートが陸のプレートに沈み込みを開始する前の所で発生するもので、ここでのプレートは下向きに曲げられるため、プレートの浅い部分では正断層型の地震となることが多い(東日本大震災は、プレート境界型で逆断層型)。

・昭和三陸地震は、その37年前に発生した明治三陸地震の東側にあたる領域のひずみが解放されて発生したと考えられており、東日本大震災発生をトリガとした同様なタイプの津波被害を伴う地震の発生が懸念されている。

